

メンテナンス / MAINTENANCE

日常のメンテナンス

ウールは繊維の性質から表面汚れなども遊び毛と一緒に排除する自浄能力があります。さらには水性を持つため、水をはじき、汚れがつきにくく、汚れても落ちやすい特長を持っています。家具の重みなどで押しつぶされた部分も、時間を置くと回復するなど、弾力性・回復性に優れています。一方でウールはアルカリ性の洗剤を使用すると黄変したり、熱湯をかけると風合いを損ねてしまいます。またウールはシミになりにくい繊維ですが、放置すると他の繊維と同様にシミ取り作業で汚れを落とすことになり、繊維を傷めてしまう恐れがあります。したがって通常のメンテナンスに加え、いくつかの点に注意することでカーペットをより長持ちさせることができます。

① 掃除機によるメンテナンス

カーペットを良いコンディションで長く使うには、最低週1回掃除機をかければ充分です。往來の激しい場所に敷いてある場合は、掃除機がけの頻度を多くしてください。

- カーペットのタイプに適した掃除機を使ってください。
(ブラシが回っている吸入口が付いた掃除機を推奨)
- 集塵袋付きタイプの掃除機でカーペット掃除を行う場合には、吸引力を低下させないよう、常に新しいものを装填してから取り掛かってください。
- 壁際、家具やカーテンの陰に隠れた部分にも、忘れず掃除機を掛けてください。
- 髪の毛をブラッシングするよう要領で作業してください。(ピリングメンテナンス)

② スチームによるメンテナンス

ウールの復元・ベタツキを取るために、スチームクリーナーにタオルを巻いて掃除をすると効果が上がります。(スチーム掃除)

③ 部分汚れのメンテナンス

部分汚れは手早い処置が大切です。洗剤はウール専用のものを使ってください。

- 特殊な汚れは、汚れの性質に適した措置が必要ですが、基本的にはウールのセーターや衣類のシミ取りに準拠してください。
 - 汚れを完全に除去しようとしてカーペットを激しくこすったり引っ掻いたりしないでください。致命的な損傷を与えることがあります。
1. 洗剤を使う前に、こそぎ落とせる汚れは取り除きます。ネバネバしたものや固体のものはスプーンやフォークで取り除き、汚れが広がるのを防ぎます。
 2. 汚れにぬるま湯をかけ、きれいなタオルやスポンジで軽く叩き、汚れに水分を移します。(セーターなどのシミを叩くように)
 3. 2で落ちない頑固な汚れは、洗剤をタオルやスポンジに染み込ませて、汚れをつまむように移し取ります。
 4. ぬるま湯を含ませた布で、洗剤分を取り除きます。
 5. タオルなどの吸水性の良い布で水分を拭き取ります。最後に乾燥させます。

ご注意

※素材の特性上、生産ロットにより若干の色差が生じることがあります。また経年経過にて色差が生じることがあります。

※シミ取りを含め、全体的なクリーニング・メンテナンスについては、専門業者へご相談ください。

※塩素系漂白剤、酸素系漂白剤は使用しないでください。

※直接熱湯をかけることは絶対に避けてください。

※防虫剤、殺虫剤、消毒剤を直接カーペットに散布すると、パイルが変色することがあります。使用の際は記載の用法・用量に従い、あらかじめ目立たない箇所を確認してからご使用ください。

※長時間直射日光のあたる場所では、パイルが変色する可能性があります。カーテン、ブラインドなどで日よけしてください。(髪の毛と同じように紫外線には弱い)

※コンクリート壁面を流れ落ちる結露は、パイルを変色させたり、カビを発生させる原因となります。こまめに換気するなど、結露を防ぐ工夫をしてください。

※パイルがほつれた時、または何かに引っかかるなどしてパイルが飛び出した場合、カットパイル商品なら引き抜かないでハサミで切り揃えて下さい。ループパイル商品のパイルが飛び出した場合、必ず近くのパイルが引っ込んでいたので干枚通しなどで引き上げて均一にしてください。

※(床暖房上での使用に関して) ウールフローリング自体への影響はございませんが、床暖房への影響につきましては、床暖房メーカー様の方へ確認頂きます様、お願い致します。

ウールカーペットに起こる現象について

バー：ウール原糸に絡みついた植物性不純物(細かな木屑のようなモノ)をバーといいます。

バーは、羊の毛を刈取る際、一部入り込むことがありますが、これはウールの特性でありカーペットの欠陥によるものではありません。

遊び毛：遊び毛はウールなどの短繊維をパイル糸にした繊維の一部が抜け出るために、綿ホコリのようなものが出てくる現象です。短い繊維を撚り合わせているため絡みの弱い一部の繊維が「遊び毛」として初期段階で出てきます。抜け毛とは異なり、商品の欠陥ではありません。こまめな掃除機がけが最も効果的です。しばらくすると(約2~3ヶ月)この遊び毛は使用初期に比べて徐々に少なくなり、カーペット本来の毛艶が現れます。またパイル糸は、ループ状よりもカット状のものは遊び毛が出やすい傾向にあります。この遊び毛は、美観を維持するためにはなくてはならない存在です。

ピリングメンテナンス



髪の毛をブラッシングするようにメンテナンスしてください。
(掃除機は回転ブラシの付いたものを推奨。)

スチーム掃除



1. スチームャーにタオルを巻き、汚れをタオルに吸着させます。
2. 食べこぼし等によるパイル表面のベタ付きも、スチームすることにより元の状態へ戻り、快適にご利用いただけます。

椅子などの痕跡回復メンテナンス



スチームアイロンを利用してパイルにスチームをあてます。
アイロンを直にカーペットに当てないでください。

くも現象：カットパイルのカーペットを敷いた後、しばらくすると、あちこちに色の差や水溜まりのように見ることがあります。これらは“くも”と呼ばれ、カットパイル、特に無地のカーペットに現れる現象で、ある部分のパイルだけが、他の部分と異なった方向に寝ている状態を示します。残念ながら原因は不明で、現在のところ、カットパイルに“くも”はつきものだ、というのが常識となっています。

さらに現象：カーペットを開梱後、酸素や紫外線に触れることで若干の色変化を起こす現象で、ウールカーペットで見られることがあります。

ボーイング現象：カーペットの柄が中央部と端部で弓なりに見える現象です。製造中の中央部と端部への張力のかかり具合の差によって生じるもので、繊維製織物では大なり小なり起こりうるものです。特に重量のあるウールカーペットでは発生しやすい現象です。